

100 世界遺産の旅 (170)

金婚旅行

早いもので結婚して 50 年が過ぎた。その 50 年は金婚と云われ、人生の大きな節目の一つである。

金婚旅行として、今年は新婚旅行の熊本/長崎、高校修学旅行の大分/熊本/宮崎/鹿児島へ行き、昨年訪問の福岡/佐賀と併せて、九州一周の旅を完結した。



唐津城、唐津、佐賀、2025 年 10 月

新婚旅行では、当然ながら一般的な高級ホテルに泊まったが、50 年も経てば、見栄も捨てて、ビジネスホテル 2 泊、車中 3 泊の節約重視の夫婦旅となった。

まずは、山陽道、九州自動車道を経て、福岡へ向かった。そして福岡より西へ進み、景勝地・虹の松原を過ぎると、唐津市の松浦川の河口に唐津城が現れた。

築城は 1602 年だったが廃城になり、1966 年に再建された城で、唐津市のランドマークタワーである。



菜畑遺跡、末盧館、唐津、2025 年 10 月

弥生時代に、朝鮮より稲作の技術が入ってきたが、最初に日本で稲作が行われた所が、倭国の末盧国(まつらこく)で、唐津の菜畑(なばたけ)遺跡である。

邪馬台国の構成国と考えられている末盧国は、壱岐島に近く、北の対馬島を経由して、朝鮮半島の南部へと続き、大陸文化の受け入れ基地であった。後の肥前国松浦郡で、現在の佐賀/東松浦半島地域にあたる。

唐津城からほど近いところに末盧館という展示場があり、その建屋の奥に菜畑遺跡があるが、一見すると小さな田んぼを遺跡として展示していた。

唐津と云えばもう一つの城があった。呼子にある名護屋城で、豊臣秀吉の朝鮮征伐の本陣であった。1592 年文禄の役と、1597 年慶長の役の 2 回にわたり朝鮮半島に侵略し、朝鮮を戦乱に巻き込んだ。

今、残っているのは、石垣だけで、所々に、徳川家康、加藤清正、伊達正宗、小西長政、真田昌幸など、諸大名陣営跡の立て札があるぐらいである。

韓国で、最たる極悪非道の日本武将は、豊臣秀吉である。しかし、韓国人が、一番に訪れたい日本の名所は大阪城で、韓国人の気質を知ることが出来る。



名護屋城博物館、唐津、2025 年 10 月

佐賀/東松浦半島の呼子は、イカの活け造りで有名である。水槽で泳いでいる剣先イカをすくい上げて造りにして供される。動いている胴体部を刺身で食した後、ゲソや頭部のエンペラも造りにしてもらった。

イカと云えば、函館のスルメイカも忘れられない。スルメイカは、活け造りも旨いが、1~2 日置いて乳白色した胴体部を刺身にして頂くのがお勧めである。



活けいか造り、呼子、唐津、2025 年 10 月

結婚式と金婚式の違いは、前者は、結婚する 2 人で決定できるが、後者は、子供と孫のスケジュールに合わせ、また会食のメニューも子供と孫の好みになる。

今年の金婚式も、50 年前の結婚式と同じく神戸の「舞子ビラ」で、50 年共に歩んで来た家人に感謝し、孫たちの健やかな成長に幸せを感じる 1 日だった。

孫 5 人へ記念品の代わりに現金を手渡すと、年金生活者なのに大丈夫かいな? という声が聞こえてきた。

巻末 (3-16) 金婚旅行 九州一周

(3-16-1) 九州一周 行程図

(3-16-2) 高校修学旅行 今昔 5 景